学力向上フロンティアスクール　中間報告書

都道府県名	山梨県

Ⅰ　学校の概要（平成15年度4月現在）

学校名	富士吉田市立　明見中学校					
学　年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	1	12	21
生徒数	129	103	122	2	356	

Ⅱ　研究の概要

1．研究主題

確かな学力を身に付けた生徒の育成

2．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

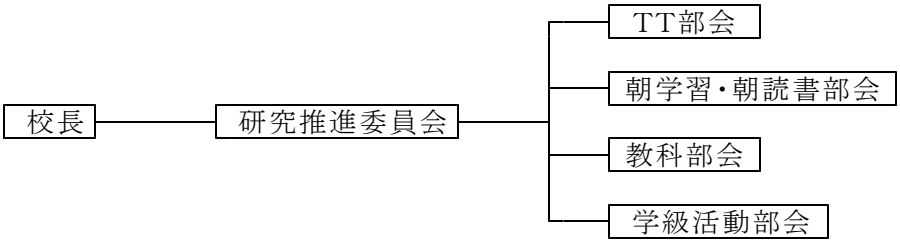
・1，2年生・英語 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 基礎・基本の習得と，学習意欲の向上を目指すため。 人的条件のため（教員数）。

(2)年次ごとの計画

平成15年度	○テーマ「確かな学力を身に付けた生徒の育成」 ○研究の見通し ・生徒一人一人の実態に応じた，きめ細かな指導の充実を図る。 ○研究の内容・方法 ・フロンティアスクールとしての研究の方向性を模索する。 ・英語科を中心に，個に応じた指導のための指導方法，指導体制の工夫改善などを研究する。

平成16年度	○テーマ「確かな学力を身に付けた生徒の育成」 ○研究仮説 ・生徒一人一人の実態に応じた，きめ細かな指導の充実を図る。 ○研究の内容・方法 ・英語科を中心に，個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善などを研究する。 ・朝学習や，朝の読書タイムなど，明見中学校がこれまで行ってきた教育実践を再考する。 ・学習集団としての学級づくりについて，研究する。 ・英語科以外の教科にも研究を広げる。

(3)研究推進体制



・「TT部会」－英語科を中心として，生徒の実態に応じた指導方法について研究を行う。
・「朝学習・朝読書部会」－基礎学力向上のための全校的な取組について研究を行う。
・「教科部会」－各教科において，個に応じたきめ細かな指導について研究を行う。
・「学級活動部会」－授業・学力・学級との関係について研究を行う。

Ⅲ　平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1．研究の成果

・英語科を中心に，個に応じたTT（ティームティーチング）の在り方について研究を深めることができた。
・「学力観」について，共通理解を図ることができた。
・生徒の実態や，生徒に身に付けさせたい力について協議することにより，今後の指導のあり方について考えることができた。
・「学力」について考える中で，各教科の本質やその教科を学ぶ意義を見直すことができた。その結果，教科研究・教材研究を深めることができた。
・学級担任による学級づくりレポートを通して，自治的活動の大切さを知ることができた。また，学習集団としての学級のあり方について考えることができた。

2．今後の課題

・今年度は，教科においては英語科を中心に研究を進めたが，学力向上の効果的な取組として，各教科が実践を行っていく必要があると考える。
・生徒の実態に合わせた，指導方法や授業の改善を深めていく必要性がある。
・研究を深めるための打ち合わせ時間，研究部会などの時間の確保。
・教室環境整備（教室の数が充分とはいえない）。
・現在の体制（教員数，期採や代替の多さも含めて）では，ゆとりをもった指導が難しく，まして研究を進めることは困難である。
・学校と家庭との連携の在り方。家庭学習の充実を図るための手だて。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・AAI（学習習慣の検査），NRT（学ぶ力の確認検査），CRT（学んだ力の確認検査）の実施。
・自己評価の実施。
・評価規準の整備と，絶対評価の実施。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・研究発表会の実施（平成16年度）

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑ 15年度からの新規校　☐ 14年度からの継続校

【学校規模】　☐ 3学級以下　☐ 4～6学級
☑ 7～9学級　☐ 10～12学級
☐ 13～15学級　☐ 16学級以上

【指導体制】　☐ 少人数指導　☑ T．Tによる指導
☐ その他

【研究教科】　☐ 国語　☐ 社会　☐ 数学　☐ 理科
☑ 外国語　☐ 音楽　☐ 美術　☐ 技術・家庭
☐ 保健体育　☐ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　☐ 無